

# *risei + trip*

*vol.*  
20

## 特集

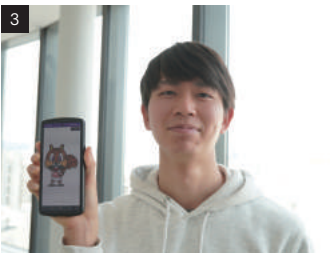
ひとりで学ぶ、  
みんなで学ぶ。

# ひとりで学ぶ、 みんなで学ぶ。

「専門的な知識を学ぶのは難しいのでは?」「勉強についていけないかな」  
専門学校に進学した学生の中には、そんな不安を抱えている人も多いと聞く。  
本校の学生たちは、どのようにしてその壁を乗り越えているのだろうか。  
それぞれの学習スタイルや勉強方法について調べてみた。



photographs by Naohiro Kurashina



1 新館2階ホールには自習や昼食のため様々な学科コースの学生が集まる 2 職員室の隣で、質問もしやすい本館自習室 3 ATコースの学習アプリで2万問以上を解いた西川さん。回答数に応じてキャラクターを得られる 4 お灸など実技練習する学生も

2024年冬、在校生を対象に「校内お気に入りの場所アンケート」を実施した。1位は24年4月に誕生した十三キャンパス新館内の自習スペース。9階建ての校舎の中には、丸テーブルが並んでいたり、カウンターになっていたりと、バリエーション豊かな学びの空間が各所に設けられている。いずれも広い窓に面し、開放的で落ち着いた雰囲気の中で学ぶ学生たちの姿を見かけない日はないほどだ。続く2位は同じ新館2階のホール(ラウンジ)。徒歩7分の距離にある本館の自習室も5位に入り、学生たちがいかに学びの空間を求めているかがわかった。

## 自分に合った学び方は。

アンケートのコメントからは、学生たちがそれぞれ自分に合う方法で前向きに勉強している様子も垣間見える。たとえば、「外を見ながら勉強できて気分転換になる」「友達と話して、アウトプットする時に自習スペースを使っている」といった声だ。また、「みんなが高め合っている実感がある」「先輩が熱心に勉強していて、モチベーションを保ちやすい」というコメントもあり、周りの雰囲気が学ぶ気持ちを後押ししているようだ。

とはいえ、入学当初から自分に合う勉強方法がわかっていない学生ばかりではない。

柔道整復学科1年の舎利倉乃綾(しゃりくら・のあ)さんは、こう語る。

「最初は『どうやって勉強しよう』と焦りましたが、同じ学科の学生で自然と集まって勉強するようになり、『みんなが学ぶスタイル』が定着しました。わからないことを聞いたり、教えたり、同じ目標を持つ者同士、助け合おうという雰囲気があるから頑張れます。苦手な分野も、勉強してわかった時が嬉しくて、だんだん学ぶことを好きになり始めています」

## 本校ならではの学修サポート。

アスレティックトレーナー(AT)コースは、23年、学生の学びをサポートするため、日本スポーツ協会のAT資格試験対策のスマホアプリ「RISTA」を独自に開発した。アプリには、つまずきやすい分野の用語集や、単元ごとの問題が2万問近く用意され、単語検索も可能。全ての学生が1年次のうちに基礎知識を固め、2年次からスムーズに試験対策の問題に取り組みできるよう作られている。24年秋、導入して以来はじめて実施されたAT理論試験では、過去最多となる50名が合格。5年連続関西No.1の実績だ(当校調べ)。

ATコース2年の西川輔(にしかわ・たすく)さんは、気がつけば試験までに2万問以上を解いていたという。「数を聞いて自分でも驚きました。スマホがあれば、どこでも勉強できるのが便利で。朝、学習のスイッチを入れるためにも通学中の電車内で問題を解くことが多かったんです。授業の復習として単元ごとに解く人や、『この土日は集中して解き続ける』と決める人など、同級生も各々にあったやり方で使っていましたね」

アプリは、他の学生の正解数などがランキング形式でわかる仕様。学外にいても、仲間の頑張りを感じられる。一人で学んでいるようでいて、みんなで切磋琢磨し合える環境だ。

サポート体制を整えているのは他学科も同様。理学療法学科では、講義を一方的に聞く受け身の授業ではなく、学生同士で話し合い、問題を解決する形式の授業を積極的に導入している。医療現場で必要となる「考える力」の向上はもちろん、学生間の交流を増やすことも狙い。4年間、お互いに助け合って乗り越えられる関係作りを後押ししたいという思いが根底にある。

「勉強のモチベーションを保つ環境」と「サポート体制」。その相乗効果で、本校の学生はそれぞれの目標に向かって学び続けている。